

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4074400286		
法人名	有限会社 オプティマムケア		
事業所名	グループホーム朝茶		
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町長者原639-1 (電話) 092-939-3435		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果確定日	平成23年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム朝茶の基本理念「地域との絆を深めて安心安全、人格尊重と思いやりのある介護」にもありますように地域住民の方々との交流を深め、地域に根ざしたグループホームとなるように心掛けています。また、毎日の朝礼や職員ミーティング等を利用して人格尊重を提唱し、日々ご利用者がその人らしく過ごす事が出来るように介護職員の意識付を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html">http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年10月17日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「事業所の存在意義は地域社会への貢献すること」であるとし、経営指針に個人の尊重を掲げていることは利用者支援する姿勢から確認できる。職員一人ひとりの心を大切に管理する姿勢は特筆すべきものがある。  
以前の課題であった「外部研修への全員参加」と「地域との信頼関係の構築・継続」に関して、目標達成期間を設定して、期間内に達成するなど事業所として一つひとつ成長している。研修等で学んだ技法を実践へと繋げる為、全職員で取り組み、よりよい介護を目指している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り後、管理者も職員も一緒に理念の唱和をし、施設内にも掲示して、全員で取り組んでいる。	全職員で地域密着の視点を有した理念を作成している。毎朝朝礼時に理念を唱和し、管理者が理念の具体性について話して、理念の共有と実践を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入して、夏祭りや敬老会にも参加させて頂いている。散歩時には挨拶を心がけ、お庭を拝見させてもらったり、お花や果物を頂くこともある。	幼稚園児が歌や踊りを利用者に披露したり、お話しボランティアが利用者を慰問する等の交流がある。また、近所の住民からお花や地域でとれた果物等を散歩中に貰う等、地域との交流は密である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2回認知症予防教室を地域公民館で開催して認知症の人の理解や支援方法をアドバイスしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回役場、区長、民生委員に声かけ、状況報告や話し合いを行い、又、意見を頂いた事はミーティングで職員にも報告している。	運営推進会議に出席された消防署員から、利用者が万一行方不明になった場合の対策として利用者の名前を付けるように要望され、靴の中に名前を示す等意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、認定調査等では、詳しい状況を報告し、役場主催のネットワーク作りにも参加して、協力、連携を深めている。	行政と事業所との相互の連携が密である。行政から脳トレの公開講座を依頼される等の協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングでは必ず全職員に研修を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。お一人だけ歩行不可能な利用者の家族から安全の為に転倒防止のための安全ベルトを使用するように強い要望があり、車椅子利用時で且つ職員がその利用者のそばを離れる時のみに安全ベルトを使用するようにし、身体の保護を目的に安全を優先する場合もある。	日中、施錠はしておらず、利用者への見守りや付き添いを徹底している。身体拘束への外部研修は年間の行事予定として位置付けられている。また、伝達研修や内部研修も行われ、研修記録、報告書も確認できる。職員の身体拘束をしないケアの実践への取り組みは評価できる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは必ず全職員に研修を行い、事業所内でも虐待が見過ごされる事がないよう自己評価表に、気づいた事は記入してもらっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで全職員に研修を行いグループホームにおける権利擁護について、事例を検討したりして理解を深めている。	制度について、利用者や家族に契約時に説明を行っている。権利擁護の外部研修も年間行事として定着している。伝達研修、内部研修も行われている。また、家族会での権利擁護関連の制度の理解と活用についての取り組みも見られる。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明は、利用者と家族に丁寧に行っており、解約時についても、家族と十分に話し合い、理解・納得してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の思いを大切に受け止め、年2回の家族会では、合同面接・個人面接も行き、電話等でも受け付けている。又、玄関には意見箱も設置している。	意見箱の設置等、担当職員や管理者への運営改善に対する利用者家族からの要望を出し易い環境づくりに努めている。家族から担当職員と利用者が一緒に写った写真を貼ってほしいとの要望が出され、運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と1対1の面談を行い、意見や要望提案に耳を傾けている。自己評価表にも記入してもらったり、意見箱も設けている。	利用者が便座に座る折に痛がるので、便座にスポンジを付けて痛みを緩和する提案が実施された事例がある。年に一度の個人面談を実施している。また、代表者、管理者が職員の心身の状態変化に気を配り、夜勤での不安な職員のメンタルケア等に心がけている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は各自健康診断を受け、体調管理を第一に勤務態勢の改正や変更にも職員の意向に耳を傾けている。管理者も毎日現場に顔を出し、勤務状況を把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	現職員の中にも65歳以上の方や他国籍の方、未経験の方もいる。介護に熱意のある方であれば、採用している。話し合いの場でも自由に発言が出来き、外部研修にも参加してもらい、能力を発揮出来るようにしている。	定年制度はなく、採用にあたって年齢等を理由に排除することはない。資格取得を希望する職員には、自己実現できるように勤務体制等にも配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念にも人権尊重を第一に掲げ、毎日管理者、職員一緒に唱和をし、ミーティングでも事例を検討して取り組んでいる。	人権教育に関する外部研修は年間行事に定着して、伝達研修や内部研修も行われている。また、外部研修への出席者も、全員が受けられるように考慮している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングでは全員が参加し意見交換している。研修案内も声をかけて、職員自らが参加し、未経験者はヘルパー2級資格の受講や介護福祉士試験にも挑戦している。専門誌も購入して、いつでも目を通せる様にしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会からの案内は、必ず職員にも声をかけ、出来るところは一緒に参加して、他事業所の取り組みを持ち帰り、当ホームの質の向上に役立てている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に1番に耳を傾け、話しかけやすい環境作りを心がけ、どのスタッフとでも安心が保てる様にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近入居された方はキーパーソンがお孫さんであり、なかなか連絡が取れないが、知人等を通して関係作りに努め安心してもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態は日々変化するので、毎日の申し送りのなかで“その時”に応じた対応を判断し、家族にも電話で報告確認し、支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は今の利用者の体調を把握し、家事など出来る事は一緒に取り組んでいる。時には利用者からいたわりの言葉をもらったりする。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は毎月お手紙で報告し、又、こまめに電話でも報告している。食欲がない時には、本人の好物を持参して貰うなど共に支え合う姿勢を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に新しい入居者には親しい知人、親戚の方等にきて頂きホームでゆっくりとお話をして頂き、安心感をもってもらっている。又、身内が遠くの方には年賀状を出したりして、とても喜ばれている。	利用者の年賀状作成と一緒に取り組み、親族に送っている。また、月2回実施している脳トレ教室を開催して利用者地域との関係を保てるように呼びかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子の方を他利用者が押して散歩に行ったり、みんなの洗濯物を畳んで貰ったりしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も入院先へ顔を出し、家族に電話して状況報告したりアドバイスしたりしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症が進んだ方にも積極的に声かけして、言葉や思いを聞き取る様になっている。紙に文字を書いてもらったり、見せたりして本人の意向の把握に努めている。	職員は一人ひとりの、日々の関わりの中で利用者に声かけしながら表情、行動から思いや真意をくみ取るようにしている。発声困難な利用者には筆談したり、意思疎通が困難な場合には家族や他の職員から聴くなど、あらゆる角度から判断し支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅からアルバム等をもってきてもらい、本人の誇りとする人生を知り。話題にするよう心がけている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、月1回のミーティングで職員の意見や家族からの意見も聞き入れ、毎月モニタリングを行い、介護計画を作成している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングで職員の意見や家族からの意見の聞き入れ、毎月モニタリングを行い、介護計画の見直しや検討を行っている。	担当者はアセスメントシールや利用者・家族、医師の要望や他の職員の意見、日頃の状態など勘案し作成している。ミーティングで全員に諮り、管理者・ケアマネージャーが個別・具体的に介護計画を作成している。6カ月毎、または、状態変化時は随時計画を見直し、家族に説明している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌、生活パターン表、介護記録で日々の状況を把握し、その人に沿った介護をするよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階にはデイサービスがあり、声かけして一緒に楽しんでもらったり、かかりつけ医への受診票提供や受診代行も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を活用したり、運営推進会議に利用者も参加して頂いたり、地域からの行事参加呼びかけにも、1人ひとりの状況に応じて参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医の選択は家族と相談の上、訪問診療、家族同伴受診をしており、受診票を作成して情報提供を行っている。	基本的に利用者や家族が希望するかかりつけ医を優先している。利用者の殆どは、24時間体制の協力医院の2週1回、往診される医師に受診している。かかりつけ医でない医療機関での受診には家族が同行しており、必要に応じ職員も同行している。家族のみの受診支援の際には、受診票に利用者の状況を記載し、家族や医師に情報提供している。受診結果等の情報についても家族へ伝達している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師がおり、日常の体調管理や医師との連携を図って健康維持に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必ず管理者か看護師が付き添い情報提供している。又、入院中は管理者が何度も出向き安心して、治療が出来る様に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族と密に連絡をとり情報提供し、対応方針を共有して取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については、事業所の対応方針があり、明文化している。利用申込時に、事業所の方針を説明しており、また、家族会でも時折説明している。利用者の状態変化時は家族、医師、職員等で話し合い、全員で方針を共有して支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は必ず看護師より指導を受け、外部研修にも参加している。緊急連絡網の掲示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の避難訓練は、年2回行っている。夜間火災報知器の誤作動があったが、近隣の方々の心強いサポートにより対応する事が出来た。	マニュアルを作成し、夜間・昼間を想定し消防署の指導のもと年2回、避難訓練を実施している。避難訓練には地域住民の参加はある。非常用食料・飲料水・備品は準備されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重を介護の基本とし、理念にも掲げ毎朝唱和している。その人の誇りを大切に、羞恥心などを大切にする介護に努めている。	施設長・管理者は、利用者の人格尊重を保つことを重視し、利用者一人ひとりの性格など把握し、誇りやプライバシーを損ねない対応について注意を払い、その都度職員を指導している。また、個人情報保護に関する内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを第一に無理強いすることがないようにしている。言葉で解りにくいときは、筆談にて対応し納得してもらって対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にして、無理強いすることがないように体調等の把握をして、その人その時にあった対応を心かけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から好みの服を聞いたり、一緒に選んでもらったり、訪問理美容も取り入れている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は少なくなったが、盛りつけや茶碗洗い等手伝って頂いている。	食事の盛り付けや茶碗洗いなどの片付けをできる範囲で行っている。職員は同じ内容の食事を一緒に行っている。菜園で育てた野菜を共に収穫し、調理するなど食事が楽しみになるように工夫をしている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医の血液検査結果も踏まえ、毎日の生活パターン票で体調を把握し、状況に応じて、栄養補助食品も利用している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアはなかなか難しいが、夕食後は全員口腔ケアを行っている。週2回訪問歯科の受診があり、清潔が保てるよう心掛けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の動きやパターン表で間隔を観ながら、トイレ排泄誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を用い、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄する取り組みを積極的に行っている。利用者が失禁した際、周囲に気づかれないように声かけし、トイレや利用者の居室でさりげない対応をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習便秘の方はお腹マッサージを行ったり、家族にヨーグルトを持参してもらったりしているが、内服薬や座薬で対応する事が多い。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の体調や意向を確認しながら、入浴を嫌いな方はタイミングを見計らって入って頂くようにしている。	入浴は毎日、利用者の希望に応じ、いずれの時間帯でも可能である。利用者の希望により、午前中の時間帯に一人ひとり、ゆったりとした気分で入浴を支援している。入浴拒否の利用者には歯磨き後や呼びかけの職員が替わったり、タイミングを図っての呼びかけなど支援している。季節に応じ、風呂に花を入れたりし、入浴を楽しめるように工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、夜間の睡眠状況をみながら、30分から1時間の昼寝をして頂いたり、外気浴、日光浴も心かけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はいつでも確認できる様にしている。変更についても必ず記録し、申し送りを行い、飲み込みの確認をしサインをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、一緒に掃除をしたり、見守りながら手伝って頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のパン屋に買い物に行ったり、公民館での敬老会に参加したり、車で花見にでかけている。	天候や利用者の状態によるが、事業所内の庭の散歩や近所にパンを買いに行ったり、ほぼ毎日支援している。年間の外出する行事を企画しており、近辺への花見など年に5回ほどドライブで外出している。利用者の希望を把握しながら出来るだけ外出の機会を多く持つように工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人の方のみ自分で所持されているが、他の方は持たせていない。代表者が預かり、必要な時いつでも使えると言うことで納得されている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年は3人の方が年賀状を出され、家族も喜ばれている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に温度計や湿度計をおき、常に気をつけている。リビングには花や写真を飾り、明るい環境を心掛けている。	リビングには花や利用者の写真や作品が飾られている。諸々に椅子が設置され、一人で過ごせるように工夫している。共有空間に続く中庭には、花や野菜がプランター栽培されている。入口には温度計、湿度計を設置し、換気には特に注意している。全体的に気になる臭いや音もなく、落ち着いた雰囲気を作っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隅や窓辺などを活用し、1人用のテーブル、椅子を置き、暫く座って頂き落ち着かされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた家具を持参して頂き、安心感をもって過ごせる様にしている。	居室は本人の使い慣れた家具やラジオなどが持ち込まれ、家族の写真や手紙、折り紙などが飾られている。利用者のペースで安心して過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等手すりをつけて安全を心がけている。居室ではブザーや鈴をならしてもらい、立ち上がり移動の安全に気をつけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない